

猫白血病ウイルス（FeLV）感染症

【原因】

猫白血病ウイルス（FeLV）はレトロウイルス科に属する RNA ウイルスです。キャリア猫（ウイルスが体内にいる猫）の唾液や尿、涙液、乳汁、血液中にウイルスが含まれています。唾液には、特に猫白血病ウイルスが多く含まれているので、キャリア猫とのケンカによる咬傷が主な感染経路になります。

【診断】

感染の診断は、血液中の抗原検査で行われます。

※ ただし、この検査については100%正確に判定できるわけではないので注意が必要になります。

- キャリア猫で、ウイルスが骨髓や細胞内に潜伏して末梢血中にウイルス抗原が出現していないときには陰性として判定されることがあります。
- 感染3ヶ月以内の猫では陰性として判定されることがあります。
- 一旦陽性と判定されても生体がウイルスを排除し、陰性となる場合があります。（キャリア猫とはなりません。念のために4ヵ月後に再検査をして確認しましょう。）

【特徴】

猫白血病ウイルスは、猫から猫へはケンカによる咬傷やグルーミングなどのほか、同じ食器やトイレを複数の猫が共有している場合には食事や飲料水、トイレの汚染尿への接触などによって感染します。また、胎盤や母親からのお乳からも感染します（親から胎児への感染）。感染猫が妊娠した場合、80%が死産あるいは新生児死となり、生き残ってもキャリア猫になります。

感染猫すべてが肉腫や白血病を発症するわけではありませんが、その危険性は高く注意が必要です。キャリアの場合には、骨髓、リンパ節、唾液腺や気道の上皮細胞などでウイルスが検出されます。

猫白血病ウイルスは猫の体外では非常に不安定で、室温では数分から数時間で感染性を失い、次亜塩素酸ナトリウム、アルコールなど、ほとんどの消毒薬で効果があります。

【症状】

発現する症状は発症した疾病の種類および病期によりさまざまです。食欲不振、あるいはまったく食べない、元気消失あるいは体重減少などが共通して認められますが、いずれも本感染症に特異的なものではありません。肉腫や白血病を発症した場合には、発熱、リンパ節腫大、脾臓の腫大、下痢、貧血や紫斑（紫色の湿疹）などの症状が認められることもあります。

★白血病ウイルスの感染により出現する主な症状★

慢性的な高熱・下痢・体重減少・流産・死産・白血病（リンパ性・非リンパ性）・再生不良性貧血（溶血性）・リンパ球減少・好中球減少・血小板減少・ブドウ膜炎（眼の病気）・口内炎（難治性）・歯肉炎（難治性）・皮膚疾患（難治性）・糸球体腎炎・胸腺萎縮・リンパ腫・白血病線維肉腫

【治療と予防】

肉腫や白血病を発症した場合には、抗がん剤などによる化学療法、口内炎などについては対症療法が行われますが、決定的な治療法はありません。

※ 細菌や真菌を原因とする難治性の歯肉炎や口内炎の場合には、抗生物質や抗真菌剤の長期使用が必要であり、併せて抗ウイルス剤であるインターフェロンを使用することもあります。

ワクチン接種（4種混合）による予防が基本です。

☆体調が悪そうなときは、早めに受診するようにしてください。